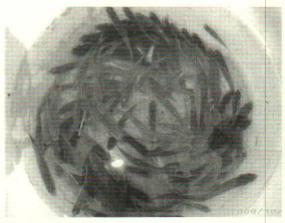
hida
広報
ひだ
町木
第48号
肥田町
まちおこし推進協議会
H20.10.30発行

町の活動特集

お魚観察会を開催

10月5日、恒例となり3回目、まちおこし推進協議会、自治会そして子供会と保護者の皆さんの参加で東町の上田周辺の水路で大変賑やかにお魚観察会が始まりました。今回は「あいせい田圃の生きもの図鑑」パンフレットを準備し、来られた皆さんに配り、網ですくった魚の種類を写真と見比べて大きい声で確認し合う子どもたちと大人の人の交歓、素晴らしい風景と時間でした。主としてタモロコ、ヤリタナゴが多く、ドジョウも見られました。

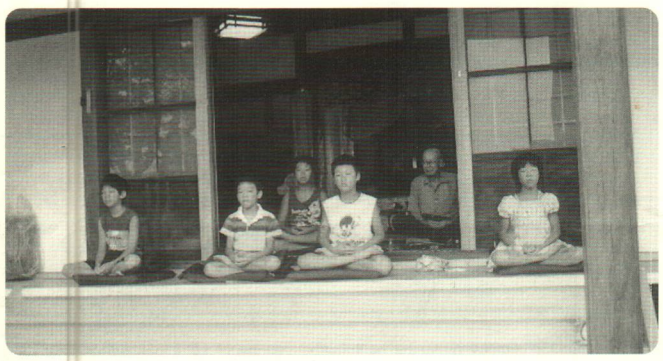


「ホタルを育てている川です」
ー生きものを育てよう

美しい環境づくりへ 看板でも呼びかけ

既に前号の広報ひだでご紹介しましたが、昔、里山で見た「ホタルを育てよう」の企画にチャレンジ。年初早々に高宮町のホタルを守る会会長さんや、甲良町の養殖をしておられる先輩の方々に現在の地帯が最適と選定いただき、7月にはホタルの幼虫約1000匹と餌になるカワニナを放流しました。その後も藤野信一さんのご協力でカワニナを追加して放流、9月に自治会の草刈り、10月にも重ねてその地帯の除草作業を終えて、「ホタルを育てている川です」の看板を掲示して環境美化の協力を呼びかけています。何としても近い将来、ホタルの飛び交う肥田の名所復活になればと願っています。皆さまのご協力をよろしくお願い申しあげます。

子供座禅の集い



恒例となり、毎年夏休み継続して朝のラジオ体操の日を選び行っていますが、今年になると「子供座禅の集い」の日以外にも子供たち有志が集い、自主的に崇徳寺のお堂から庭を眺めて座禅を組んでいる姿が次第に増えてきているのを見かけるようになりました。

城下町肥田を訪ねて
研修グループ来訪続く

このところ、彦根城築城400年、及び井伊直弼と開国150年のイベントに合わせて地元の歴史文化の啓発が進められています。今年も多くの方々に肥田町の史跡を訪ねていただきました。

7月21日には、彦根市「ひこね元気計画21」グループの30名が来られました。会員様は毎月21日に史跡や街道のウォーキングをされています。

9月21日には、琵琶湖博物館見学会の企画で「古い民家のおけ風呂を見に行こう」と登町鹿島邸と城下町肥田の研修を通して、少し昔の生活ぶり住まいぶりの研修に訪ねてこられました。

彦根の桶風呂

おくどさん（カマド）

10月25日には、彦根市教育委員会主催の「彦根の城跡を見に行こう」の企画に応募された50名の方が肥田城に、そして27日には山崎城、次いで29日には佐和山城の研修と回られます。3つの城跡に注目して、ゆかりのある寺や街道なども歩いて回る研修です。

肥田町の歴史文化の再発見 その二

肥田城遺跡の調査成果について

滋賀県文化財保護協会　2008年８月30日　現地説明会資料より

滋賀県文化財保護協会によって行われました肥田城遺跡調査も今年度は３年目を迎えました。顧みますと、１年目の平成18年度は、肥田集落の南東側の調査区で行われ、奈良時代から平安時代（1300年から1200年前）の集落跡がみつかり、平成19年度は聖泉大学の南東側で古墳時代後期、約1500年前の古墳の周溝（塚を巡る溝）が見つかり、小字名から塚乞手古墳と名付けられました。その周溝から鳥型の木製埴輪が出土しています。

そして今年度の調査は、小字名「丹波屋敷」と「山王」の地点にあたります。約2,300平方メートルを調査し、室町時代後期（16世紀、約500年前）を中心とした時期の遺構がみつかっています。その主な遺構は、２本の大区画溝とその内側を区画している小区画溝、そして建物となります。大区画溝２は小字名「丹波屋敷」と「山王」の字境にあたる溝です。明確には建物になる柱穴が少ないのですが、小区画溝単位で柱穴が集中していることから、小区画に囲まれている内側に建物が建っていたものと推定されます。

それは、柱穴からは柱を支える礎盤石といわれる板石や柱財がみつかっていることからもそのことを裏付けているといえます。大区画溝２では、部分的に護岸をしている地点や溝中に抗列がみつかっていることから橋などがあったと思われます。また、小区画溝２では、深い部分に杭と石材を使って護岸を行っていたり、人頭大の石材と拳大の石材を組み合わせて補強した土橋もみつかっています。

出土遺物は、大区画溝、小区画溝から日用雑器などの嗜好品、信仰に関わる品など多岐にわたって出土しています。遺物は、おおむね16世紀前半代に集中しています。

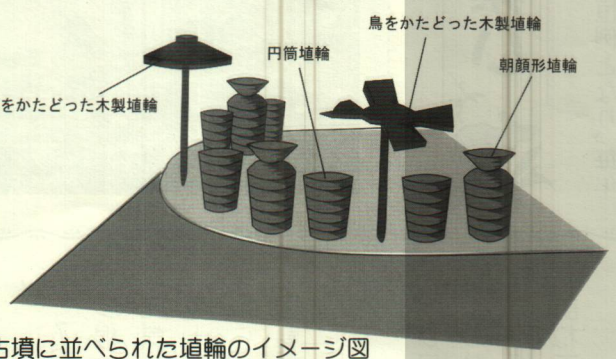
今年度の調査地は、当初から小字名より肥田城に関係する遺構群が見つかることが予想されました。調査の結果、文献に登場する16世紀代に該当する時期の遺構群や遺物がみつかりました。それからは城を形成する複数の屋敷地が広がっていることがわかりました。出土した遺物からは、城内日常生活の一端を示すものが多くみつかっており、懸佛や佛飯具、燭台、香炉などがみつかっていることからも、寺院や持佛堂、仏間のような施設の存在を想定できます。また茶道具類もみつかっていることから日常的にお茶をたしなんでいたようです。この様な、遺構や遺物によって、従来、文献上でしかその姿がわからなかった「肥田城」の様子がより具体的な姿に復元できる材料がそろってきたといえそうです。

周濠から木製埴輪（ハニワ）を発見

滋賀県文化財保護協会　2007年度発掘調査報告より

これまでの調査で肥田城遺跡からは、16世紀の肥田城攻めの際の堤跡や、奈良時代から鎌倉時代の集落跡を確認しています。今回の調査では、幅２m以上、深さ0.6mの６世紀前期の古墳の周濠の一部を発見しました。周濠の中から土器や埴輪（ハニワ）とともに木製埴輪などが見つかりました。調査を行った水田は、塚乞手（ツカゴッテ）という小字名で知られていて地名からも古墳が存在したことがうかがえます。

見つかった埴輪は、円筒埴輪や朝顔型埴輪などのほかに、鳥や蓋（きぬがさ）をかたどった木製埴輪です。埴輪は、古墳と外の世界とを区別したり、葬られた首長の権威を示すために、古墳の墳丘の周囲を取り巻く埴輪列としておかれていたものと考えられます。蓋は高貴な人にさしかける笠のことで、葬られた人物が高い身分であったことをうかがわせます。鳥は死者の魂を運ぶ存在と考えられていたため、その姿をかたどった埴輪が古墳に並べられていたものと考えられます。



古墳に並べられた埴輪のイメージ図

これまでは、埴輪は土で作られたものだけと思われていましたが、今回見つかったものと同じ木製埴輪は各地で出土し、同じ用途を持っていたことがわかってきました。木製埴輪の分布は、主に近畿地方の古墳から出土していますが、特に奈良県からの出土が21例と多く、次いで滋賀県９例、京都府３例、大阪府２例の順で出土事例があるほかには、福岡県、愛知県、韓国からそれぞれ１例ずつの出土事例があります。

滋賀県内では８遺跡９基であります。古代からの主要交通路、東山道、中山道沿いに南の草津市から北の米原市へ帯状に広がっています。

これまでに出土している木製埴輪に使用されている樹種は、その大半がコウヤマキとなっています。この樹種は古墳時代前期には木棺として用いられていますが、このたびの肥田の塚乞手古墳のものはスギが使われていました。原材料としてコウヤマキを手に入れることができなかったのでしょうか。

滋賀県文化財保護協会の皆さまには、３年間にわたる肥田城遺跡調査、大変にご苦労様でした。肥田町にとっては、改めてその意味深い歴史文化に目を開く機会をいただき、深く感謝申しております。有難うございました。

私どもは、肥田町独自の歴史文化の誇りに改めて目を開き、各ご家庭でも話題にあげていただき、後世まで伝えていきたいと願っています。

御礼の言葉

父 大村治兵衛 百歳に際して

次女　片岡直子

紙面をお借りして一言御礼申し上げます。日頃は親元の家族と私を含め、色々と大変お世話になり、誠に有難うございます。

今年度は、父治兵衛の百歳の節目の年に当りまして、肥田町として記念のお品を戴きました事を厚く御礼申し上げます。

父は、今日まで重ねました自分自身は「思いのほかの寿命を頂いたなあ」と「でも百年って、そんなに長くはなかったのでは」の質問には、「やっぱりそれだけの事はあったなあ」と振り返っています。顧みますと、私の幼い頃の災害時には、父はいつも留守で、即その現場に駆けつけて対処に当っていたことを思い出します。その後になりましても、町の皆さまのご支援をいただきながら色々と仕事に当らせていただきましたこと、改めて深く感謝申しております。

最近になりますと、楽しみにさせてもらっていますのは、肥田のおうどん屋さんでの、美味しいおうどんを味わい、またお店に見えるお客さんの方々との温かい交歓の時間を嬉しいと申しており、また、大村の畳屋さんの所では叔父との昔の出来事を回想しながら、心も安らぐのか、こくりこくりと居眠っているようで、本当に人生の余韻を味わわせてもらっているのでしょう。

このたびは格別のお心遣いを賜り有難うございました。今後ともお世話をお掛けしますが何とぞよろしくお願い申し上げます。